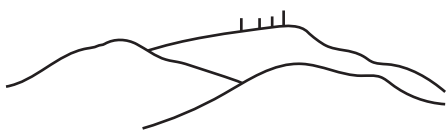


# Youth Manna

2022/3/21 - 13/27



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/3/21(月)

## ゼカリヤ 7 章

◎私達の悔い改めは、真に神様に向いているか

時はダレイオス王の第4年(紀元前518年)。神殿が崩壊して70年の月日が経った時のこと。ベテルは、いつまでこの断食という習慣を続けなければいけないのか?という気持ちで祭司、預言者たちに尋ねた(2-3)。しかし、主は「あなたがたの断食はこのわたしのためだったのか(5)、自分たちのためではなかったか(6)」と問う。

私達の悔い改めは、神様に向かっていくものだろうか?自分が罪から解放されて癒されるため、慰められたいから、もちろんそれも大切だけど、それだけでなく、悔い改めを通して神様がわたしに何をしてくれるのか(神様のビジョン)を受け取れるように祈ろう!

2022/3/22(火)

## ゼカリヤ 8 章

神様がどれほどご自分の民を愛されているかを感じられる箇所だね。今日の箇所では十度も「万軍の主はこう言われる」と神様から祝福が宣言されているよ。

まずは2-8節で回復したエルサレムの姿が語られた後、神様は民に勇気を出して神殿建設に取り組むように命じられる(9-)。どんなに難しいと思えることであっても、神様が共にいてくださることを知る時、信仰によって勇気を出すことができるね。

そして神様が民に望んだことは、彼らが互いに愛し合うことでした。神様が注がれる祝福と、彼らの真実な生き方を見て、多くの国民が、本当の神を求めてエルサレムにやってくると語られている。「あなたが信じている神様を私も知りたい」と周りから声をかけられる程に、神様と近しく歩めたら素晴らしいことだね!今日神様を愛し、神様を喜ぶ歩みができるように祈ろう!

2022/3/23(水)

## ゼカリヤ 9 章

本章には、来るべき王なるメシアの勝利が描かれている。この箇所は三つの部分に分かれる。1-8節では、ダビデ王時代の領土が回復され、敵であったペリシテも「ユダの中の一首长のようになる」と告げられる。また9-10節でも、メシアによって諸国の民に平和が告げられ、「その支配は海から海へ、大河から地の果てに至る」と宣言される。さらに11-17節では、分裂していた南ユダとエフライム(北イスラエル)がともに一つの矢として弓につがえられ、圧倒的な勝利がもたらされると言われている。これらがいつのことを指すのかは定かではないが、この大勝利と回復の預言に、苦難の中にあつたユダの民の期待は大いに高まっただろう。

主のみこころは、私たちの期待をはるかに超えた大きなものであると信じよう!

2022/3/24(木)

## ゼカリヤ 10 章

「主に雨を求めよ、後の雨の時に。主は稲光を造り、大雨を人々に、野の草をすべての人に下さる。」

この箇所のさす雨とは、イスラエルの穀物の穂を実らせる、収穫のための雨とされていて、それを主に求めるように勧めている。この雨こそ実りを豊かにしてくれるのである。全ての必要は神様が満たして下さる。

今年度のみことばを改めて覚えよう! マタイ 7:7「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。」

求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれる。聖書の真実を信じて歩もう!

散歩にゴーの日 2022/3/25(金)

## ゼカリヤ 11 章

真の牧者と偽りの牧者を比較している。真の牧者である主は「羊たち=イスラエルの民」を救う(9:16, 10章)。偽りの牧者である無責任な指導者やアッシリア、バビロンは自分の利益を優先する(5)。真の牧者を嫌って拒絶した民には、偽りの愚かな牧者が与えられ(15)、悲惨な結末を迎える。

ただし、真の牧者である主とその群れである民との正しい関係が戻るなら、神の民には完全な回復がある(9-10章)。イエスは銀貨30枚で売られて(13)、十字架につけられることを通して、神様と私たちの関係を回復させて下さった。その愛を噛みしめて、今日を生きよう。

2021/3/26(土)

## ゼカリヤ 12 章

今日から14章までは、世界の終わりに神様がさばきをする『主の日』についてのが書かれているよ。その中でも今日の場所はエルサレムの劇的な救いについてが記されているんだ。

そのエルサレムの救いの鍵は『徹底した悔い改め』にあるのが後半を読むと分かるよ。10節をもう一度読んでみよう!

イエス様が十字架にかけられているのを見て、大事な子どもを失うくらいの嘆きと悲しみを、感じる。それはイエス様の痛みが、自分の罪のためだと心から分かったからなんだ。このことに向き合うのは勇気がいるし、辛いことだよ。でも、その悔い改めの先に、神様は平安を用意してくださっている。

私たちも自分の罪がイエス様を十字架にかけたっていうことに、じっくり向き合う時間をとろう。

2021/3/27(日)

## ゼカリヤ 13 章

「その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。」と1節に書いてありますが、この泉を開いてくださる方こそイエス様です。ヨハネの福音書4章で、イエス様はサマリアの女に、いのちの水にあずかるには自分の罪に直面する必要があったことが書かれています。同じように、エルサレムの人々も悔い改めが必要でした。私たちの心には悔い改めるべきことや偶像となっているものはないだろうか。

7-9節では、主の民が厳しい試練によってきよめられることが書かれています。しかし、それは銀や金を精練するように、神様が彼らをきよめられる過程です。そこで練られた者たちは、「これはわたしの民」と呼ばれ、「主は私の神」と言うまことの信仰に至ります。イエス様の十字架こそが、罪と汚れをきよめる泉であり、私たちを精練する愛の溶鉱炉なのです。

祈り:主よ、私の内にも、永遠のいのちに至る泉を湧き出させてください。